



舞鶴市立明倫小学校
令和6年7月19日



心つながる「キャッチボール」を

周りの木々からせみの鳴き声が聞こえ、いよいよ暑い夏の本番を迎えました。学校では、4月から学習や行事等様々な教育活動を進め、今日1学期の終業式を迎え、明日から長い夏休みに入ります。

今年度のスタートから保護者・地域の皆様の温かいご理解とご協力、そしてご支援により、子どもたちはさらによさを伸ばし、それぞれに成長ができました。心より感謝申し上げます。

子どもたちが学期の振り返りとして持ち帰ります通知表にはその成長の一端が記されています。「これができるようになったね。」「頑張ってきたから、このことが伸びてきたね。」など小さな達成や努力に対して、褒め励まし、次への意欲につなげていただきたいと思えます。

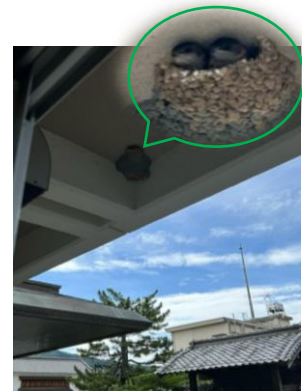
メジャーリーグで今シーズンも絶好調の大谷選手、彼からいただいた「大谷グローブ」を使ってキャッチボールをする子どもは、一時期のことを思うと少なくなりましたが、時々思い出したかのように職員室にグローブとボールを借りにくる子がいます。実際のキャッチボールをされる家庭はそう多くはないかと思いますが、コミュニケーションとしての言葉のキャッチボールはいつもされているのではないのでしょうか。

キャッチボールは、相手の胸をめがけ、スピードを考えて相手が受けやすいボールを投げます。「キャッチ」は『受け止めるとか理解する』の意味があり、思いやりやつながりを持つことでもあります。ドッジボールは、相手に受けにくいボールを投げて、アウトにします。「ドッジ」は『逃げる、身をかかわす』の意味があり、攻撃やつながりを断つことでもあります。私たち大人は、子どもから投げられる言葉や行動をしっかり受け止め、その子に合った言葉や行動で、大人としての思いを込めて投げ返すようなキャッチボールができているか、知らず知らずにドッジボールになっていないかを振り返ってみることも必要かと思っています。

明日から8月28日まで長い夏休みに入り、家庭や地域で多くの時間を過ごします。興味や関心のあることにじっくり取り組んだり、家庭や地域の一員として活動したりするのに絶好の機会です。家庭や地域の皆様におかれましても、あいさつや会話の「キャッチボール」とともに、健康で安全で有意義な生活ができますようお力添えをお願いいたします。

また、2学期も引き続きよろしく願いいたします。

校長 井上 啓



校長室の軒先に作った巣から
顔を出す2羽のツバメのひな